

地域の一員として、災害から大月を守るために 自分たちにできること

大月中 防災だより
防災士の夏休み編

この8月は全国で記録的な大雨となり、土砂災害など各地で甚大な被害をもたらしました。やがて来る南海トラフ巨大地震だけでなく、風水害等への備えについても日頃から皆で取り組まなければと考えさせられました。今回は、私たちの夏休み中の防災士としての活動を紹介します。

7/26・9/1 防災出前授業を開催

おおつき保育園ぞう組さんと、大月小学校1年生に防災出前授業を行いました。危機管理紙芝居の読み聞かせや避難時の「4つの約束」の話、授業後は、「ひなんのきまり」カードを配布しました。さらに、小学校では、校舎や運動場で地震が起きた際にどうしたら良いのか、場面絵を使って具体的に説明しました。

興味を持ってもらえるようわかりやすく説明することの難しさを実感しましたが、真剣に話を聞いてくれ、質問もしてくれたので、自分たちも防災について考えを深める良い機会になりました。

年齢に関係なく、一度理解できればその知識は一生使えるといます。揺れている間は「体を低くして、しっかりと頭を守る」ことの大切さが伝わっていると嬉しいです。



避難の際の「4つの約束」

- お** (押さない)
- は** (走らない)
- し** (しゃべらない)
- も** (もどらない)



自宅でも
役立つ!

揺れを感じたら取る行動

- 1 なるべく安全な場所へ移動 (物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所)

POINT!

廊下や玄関など

- 2 姿勢を低く頭の上に少し空間をあげ、手元にある物で頭を守る
近くに丈夫なテーブルなどがあれば下に隠れる

※ 物が無い時は、後頭部に手を当て、危険なものにお尻を向け
しゃがみ込む「ダンゴムシのポーズ」



※イラスト「あいしエイクアウト」HPより

POINT!

ケガをすると致命傷となる頭・首・手首の内側を守ること

8/6 大方高校防災委員会との交流

『大方高校オリジナル HUG※』を使った避難所運営訓練では、地域の方から聞き取りした実際の個人情報が入ったカードを作って実施していると聞いて驚きました。

活動の幅が広く、「犠牲者0」を目指して地域の人たちのために自分たちで計画・実践しており、そうした積極的な部分をまずは学ばなければならないと思いました。自分たちもこうした経験を活かして、防災活動に取り組みたいし、学んだことを多くの人に伝えていきたいです。

※ HUG (HINANJO UNEI GAME) とは?

避難者の情報が書かれたカードを用いて、避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応するかを模擬体験するゲームです。

11月7日(日)は「県内一斉避難訓練」、「地域のみんで自主防災訓練」の日です。

町内各地区で避難訓練や炊き出し訓練、消火訓練が行われます。
友達にも声をかけて、私たちも一緒に訓練に参加したいと思います。

大月中学校3年生 防災士 石黒莉庵 橋本明誠 吉岡航太郎

今回は私たちが
大月中の活動を
紹介します！



よしおか こうたろう
吉岡 航太郎 さん

大月中学校 3年 防災士
いしぐろ りあん
石黒 莉庵 さん

はしもと こうせい
橋本 明誠 さん

地域の一員として、災害から大月を守るために

自分たちにできること

大月中
防災だより

大月中学校では、昨年度から「高知県実践的防災教育推進事業拠点校」の指定を受け、「自分の生命は自分で守る」を基本に防災学習に取り組んでいます。

今年度は、避難訓練を中学校単独で5回、小中学校合同で3回実施するほか、各学年が「地域の一員として災害から大月を守るために自分たちにできること」をテーマに学習しています。



防災士ってどんな人？

地域の防災活動の中心となって、減災や社会の防災力向上を目指して活動することを期待され、そのための十分な意識と知識・技能を有するものとして日本防災士機構が認証した人。



▲防災士には必須の救命講習

30問の試験を受け、無事、合格（正答率8割以上）することができました。

そして、最終日に1時間、大月分署の方々に指導を受けた私たちは、「普通救命実技講習」の修了資格をとり、教本を読み込んでレポートの提出、四万十市での2日間にわたる講義を受けました。

次いで、幡多西部消防組合大月分署の方々に指導を受けた私たちは、「普通救命実技講習」の修了資格をとり、教本を読み込んでレポートの提出、四万十市での2日間にわたる講義を受けました。

中学生での「防災士」資格取得は県内でも珍しい

先生から防災士資格試験の話聞いた私たちは、防災士ってどんなことをする人たちなのだろうと興味もあって応募することにしました。

防災学習の中で「防災士」に興味を持った私たち

防災士試験に チャレンジ!



問題 1 大規模災害に備え、一定期間自活できるように各家庭で備蓄品を用意することが大切だ。備蓄品の優先順位に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 生き埋めになった人は住民の手で救出することはできないので、避難所に行くから必要なものだけを備える。
- ② 災害直後には公的救助の力が被災地全域には及びにくい。隣近所で助け合うためにバール、のこぎり、ジャッキなどを備えておく必要がある。
- ③ 避難所に行けば必ず炊き出しがあるのでガスコンロ、調理道具等は不要である。

問題 2 津波の特徴に関する記述のうち正しいものはどれか。

- ① 津波は何波もくる。第1波が終わったからといって油断してはならない。
- ② 津波は川に入ると、流れてくる川の水とエネルギーを相殺するので河口部で止まる。
- ③ 津波の破壊力は極めて大きいので、鉄筋コンクリートビルも危険である。

問題 3 地震には海溝型の地震と内陸直下の地震とがある。これらの地震に関する記述のうち正しいものはどれか。

- ① 活断層の活動による内陸直下型地震は、一般に震源が浅いため、地表は激しい揺れに見舞われ、局地的ではあるが甚大な災害となることがある。
- ② 海の底で起きる海溝型地震は陸地にはほとんど影響を与えない。船の被害は警戒されるが都市に被害が及ぶことはない。
- ③ 海のプレートと陸側のプレートとの境界で起きる地震は、マグニチュード3～4規模のものに限られる。

①㊦ ㊧ ㊨ ②㊩ ㊪ ㊫ ③㊬ ㊭ ㊮ (㊯)

令和2年度(1年目)の取り組み

現2年生 防災危険箇所マップの作成

柏島地区、弘見(本田・郷)地区、泊浦地区の防災危険箇所マップを作成し、役場やお世話になった3地区の区長さんにお届けしました。



▲危険箇所を実際に見て確認しました



▲県土木部防災砂防課の方に防災マップの活用について説明を受けました



▲泊浦地区の防災危険箇所マップ



▲町長や大月小6年生を招いての学習成果報告会を開催

現3年生 通学路災害避難バスマップの作成

普段からスクールバスを活用する私たちがだからこそ、バスに乗っている時に被災した場合の対応や避難所などが分かるマップを作りました。

クリアファイルにして、全戸に配布しました。



「これまでとこれから」

これまでの防災学習を通じて、日本の自然災害の多さを知り、いずれ来る南海トラフ巨大地震に備え、自分たちの世代が家族や地域のために何か行動しなければという思いが高まってきました。
これからは、「防災士」として大月の過去の災害被害の状況や減災に向けた取り組みについてもっと学び、これまで得た知識等を生かして、海岸・山間部の地域に住む皆さんの防災意識がさらに高められるような活動が、少しでもできていけたらと思っています。

大月中学校 3年 防災士

石黒莉庵
橋本明誠
吉岡航太郎

「今年度の取り組み」

今年度は地区の防災訓練に参加したり、昨年度とは違う地区の防災危険箇所マップ作成などに取り組む予定です。次号以降も大月中学校の取り組みを紹介していきますのでお楽しみに。